

平成 30 年 7 月豪雨災害の被災地へ「こころのケア班」の一員として 裾野赤十字病院は看護師長を派遣

台風 7 号や梅雨前線の影響による記録的な豪雨により、西日本を中心に甚大な被害が発生しました。裾野赤十字病院は豪雨災害の被災地広島県呉市内へ「こころのケア班」の一員として下嵯看護師長を派遣しました。

大規模災害が発生すると、家族や友人を失ったり、また避難所での不自由な生活を強いられたりすることにより、心に大きなダメージを受け、時に体調の変化など身体的な症状となって表れることがあります。医療救護活動と主に、現在このようなこころのケアのニーズが高まってきていることから、今回の派遣が決定しました。

「活動内容」

県内赤十字施設（日本赤十字社静岡県支部、裾野・伊豆・引佐赤十字病院）の職員で「日本赤十字社静岡県支部こころのケア班」を結成し、広島県呉市内でこころのケア活動を実施します。活動は 8 月 1 日から 8 月 6 日までの 6 日間となり、市内の避難所となっている小学校やまちづくりセンター、集会所への巡回を予定しております。

写真は 8 月 1 日朝の出発式の様子です。

